

Q33

抗がん剤治療は 脳に悪い影響がありますか？

脳には血液脳関門というバリアが存在します。これは脳にとって有害な血液中の物質が脳に広がり、その機能に悪影響を及ぼさないようにするための体に備わった防御機構の1つです。抗がん剤も例外ではなく、むしろ注射や内服で血液中に入った抗がん剤が脳にだけいきわたらないことの方が多いため、脳そのものから出来た悪性腫瘍や、脳に転移した腫瘍では、他の全身の臓器に使う抗がん剤と異なった、脳に到達しやすい特別な薬剤の使用や、特別な投与方法が必要であるほどです。つまり、一般的に脳はいろんな薬剤から守られているということです。

しかしながら、ある種の抗がん剤は他の臓器ではあまり影響のない量であっても、脳に悪影響を及ぼすことがあります。そのような可能性のある抗がん剤と代表的な症状を表にまとめました。頻度はさまざまに必ずしもこのような副作用が出るというわけではありませんが、一旦このような副作用が出現したら重い症状に発展することもありますので、早いうちに担当医師、看護師に相談されることが重要です。

(黒田順一郎)

表1 脳神経系に影響を及ぼす可能性のある抗がん剤

主要商品名	一般名	症状
メソトレキサート	メソトレキサート	けいれん、まひ、失語、認知症
塩酸プロカルバジン	プロカルバジン塩酸塩	けいれん、神経過敏、倦怠感
5-FU	フルオロウラシル	健忘、歩行障害、視覚障害
フルツロン	ドキシフルリジン	ふらつき、しびれ、舌のもつれ
フルダラ	フルダラビンリン酸エステル	さく乱、こん睡、興奮
ロイナーゼ	L-アスパラギナーゼ	倦怠感、傾眠、不安
コスメゲン	アクチノマイシンD	倦怠感、けいれん、めまい
オンコピン	ピンクリスチン塩酸塩	視神経萎縮、味覚障害、めまい
エクザール	ビンブラスチン硫酸塩	けいれん、さく乱、こん睡
タキソール	バクリタキセル	ふらつき、けいれん、視覚障害
アリミデックス	アナストロゾール	異常感覚、味覚異常
ノルバデックス	タモキシフェンクエン酸塩	視力異常、頭痛、めまい
プリプラチン、ランダ	シスプラチン	聴力低下、ふらつき、舌のもつれ、けいれん
ベプシド、ラステット	エトポシド	頭痛、しびれ、視覚障害
カドサイラ	トラスツズマブエムタンシン	頭痛、味覚異常、めまい
アーゼラ	オファツムマブ	意識障害、認知障害、視覚障害
アドセトリス	ブレンツキシマブ ベドチン	意識障害、認知障害、麻痺症状
ゼヴァリン	イブリツモマブ チウキセタン	頭痛、めまい、不眠
インライタ	アキシチニブ	頭痛、けいれん、視覚障害、味覚異常
ヴォトリエント	バゾパニブ塩酸塩	頭痛、覚醒低下、視力消失、味覚異常
スチバーガ	レゴラフェニブ	けいれん、頭痛、視覚障害
サレド	サリドマイド	脳梗塞、傾眠、けいれん